

金属団地ニュース





消防訓練開催

金属団地自衛消防隊による消防訓練が、3月15日(金)正午より開催し、(株)石田製作所工場敷地内にある防火水槽を使って放水訓練を行いました。前回9月の訓練ではポンプに不具合があり放水できず、その後業者に見てもらったところポンプに異常はなく、吸菅をポンプに接続する際に締め付けが悪かったのではないかとの指摘を受けました。これらを踏まえてひとつひとつの作業を確認しながら訓練を行いました。緊急時に迅速かつ確実な対応ができるよう機材の取扱い知識向上と隊員間の連携強化に努めてまいります。



3月度月例会開催

3月18日(月)正午より、研修センター 3階の集会室にて3月度月例会が開催されました。今回は講師にデロイトトーマツ税理士法人 マネージャー 山田康弘氏をお迎えし、『平成31年度税制改正』についてご講演いただきました。



たった一台 97万円の旋盤

日本がまだ高度経済成長に湧く以前の昭和43年9月。
たった一台の旋盤から、ミヤナガはスタートしました。

1957年(昭和35年)4月。創業者 宮永恒良(当時18歳)は、生まれ育った宮崎県国富町より工場で働く事を夢見て、職業安定所を頼りに岐阜へ。

その後、いくつかの部品加工会社での勤務を経て、技術を磨き、自分の工場を持つことを考え始めました。

1968年(昭和43年)9月。身に付けた技術を活かし開業。

機械を購入する資金がない中、商社と交渉し手形を切ってもらい、一台の旋盤を購入。当時の価格で97万円。この一台の旋盤から、ミヤナガの歴史は始まりました。

当初はミシンの修理を請け負い、のちに部品の生産に移行。しかし、1本500円ほどの刃物(バイト)



を何本も買うことができない為、1つの製品を加工するのに、1本の刃物で粗削りをし、その刃物を加工して、二次加工、三次加工が出来る刃物にし、そこで出た削り屑を自転車で鉄クズ屋へ持っていき、お金にし、次の新しい刃物を購入しました。

当時の主要業務はミシンの大型部品加工。常に創意工夫をし、コツコツと借入を返済し続けました。

1985年(昭和60年)6月。各務原市金属団地の現在の工場に移転。

岐阜県金属工業団地の数多くの先輩企業とは比べものにならないほど、まだまだ若輩者であり、浅い歴史ではありますが、弊社は昨年(2018年)創業50周年を迎えました。

工業用ミシン及びその部品製造、機械据付台諸部品の製造を目的に昭和43年創業して以来、お客さまを始め、周りの方々から温かいご支援を頂き、現在は、旋盤加工、フライス加工を主に、材料仕入れから完成品の納品まで、工作機械及び精密機械の部品メーカーとして今日を迎えております。



今後も創業から積み重ねた経験と技術力を駆使し、新しい設備を取り入れ、より精密な機械加工にも積極的にチャレンジし、お客様のご要望にお応えしてまいります。

金属工業団地協同組合企業さまをはじめ、周りの多くの方々を支えられながら歩んできたこの50年。皆さまのお陰で50年という節目を迎えられましたことに、心より感謝し、これからもより良い製品づくりに取り組んでまいります。



 **株式会社三ヤナガ**



新元号に想う

30年を超える「平成」の時代も4月までとなり、5月からはいよいよ新元号に切り替わる。この原稿を書いているのは3月25日であるが、1週間後の4月1日に新元号の発表がなされ、金属団地ニュースが配布される頃には、新元号への各種書類の確認や変更対応に追われている事だろう。

近頃盛んにメディアで話題になっているのでご存知の方も多いかと思うが、この元号というものはあの歴史的に有名な大化の改新の「大化」から始まって、「平成」まで247代に亘って脈々と続く日本固有のものであるようだ。この元号の存在意義については皆さんどのようにお考えだろうか？私とはというと・・・数年前までは、西暦と元号の両方を併用するのは煩わしいので、世界標準の西暦のみで良いのではないかと思っていた。しかし、ここ数年は日本人である事、日本で暮らしている事の素晴らしさを実感する事も多く、この脈々と受け継がれてきた元号というものを日本人のアイデンティティーとして大事にしたいと思うようになったし、多くの方が元号に対して何かしらの思いを持ってもらえると良いなと考えるようにもなった。直近の「平成」も何気なく書けば、ただの文字となってしまうが、そこに込められた「国の内外、天地とも平和が達成される」という願いを、もっと国民ひとりひとりが受け止めながら「平成」を使用すれば、この殺伐とした世の中ももう少し平和になるのかも！？なんて思ったりもする。

もし元号が国民の意識に少しでも影響を与えることができるのであれば、次の元号が何になるかは非常に重要になってくると思うが、元号を決めるにあたっては次の5つの決まりがあるとの事である。

1. 国民の理想としてふさわしい良い意味を持つ
2. 過去の元号などで使われていない
3. 漢字2字
4. 俗用されていない
5. 読み書きしやすい

今回の新元号予想について人気なのは「安」を用いた元号で、中でも「安久」が人気だそうである。長く安らかに…みたいな意味合いだと思われ、これはこれで良いのだが、ちょっとイメージがポワンとしてもう少しパンチが欲しいように思う。個人的には「元気〇年！」、とか「気合〇年！」とかにすれば、書く度にテンションが上がってきて、国民にも活力が出てきそうな気がするので是非採用してほしいのだが、4の俗用に引っかかるどころか、当然のことながら論外になるので残念である(笑)

安倍首相曰く、「新元号は日本人の生活に深く根差すものに」という事のようにであるが、果たしてどのような元号になるのであろうか。ただ、どんな元号になったとしても、新しく決まった新元号への願いを、より多くの日本人が受け止めて使って行って欲しいと思う。

赤眼鏡



ベトナム視察研修

2月21日(木)から24日(日)の日程で、平成最後の青年部研修旅行としてベトナムはホーチミン市へ行ってまいりました。4月に卒業予定の3名の会員との思い出作りのために昨年からコツコツと積み立てを貯めて実現した、青年部として4年ぶりの海外視察となりました。ベトナムは初めて行くという会員も多く、中には前の週に組合の行事でタイへ行ったばかりという過密日程の中参加してくれた会員もいました。技能実習生の送り出しや企業の海外進出先として中国に代わり今最も発展著しい国と言えるベトナム。大変興味深い視察に、一同ワクワクしながら当日を迎えました。



セントレアで集合し定刻通り飛び立った我々でしたが、座席の前に映画を観たりゲームができる画面がないタイプの飛行機で6時間以上座るのは、いきなりなかなかの試練でした・・・入国審査はものすごい人ばかりでこれまたうんざり。ようやく手荷物引渡場にたどり着いたと思ったら、すでにベルトコンベヤから係の人の手で降ろされた手荷物が私たちを待っているという有様でした。

そして外は暑い！ガイドさん曰く日中は36度だとか。バスに乗り、早速ガイドさんに両替をしてもらおうと、ゼロがビッシリ並んだお札がいっぱいもらえました。1円は約200ベトナムドン(VND)ですから、1万円で200万ドンになります。なんかすごい大金持ちになったみたいで面白い！などと物珍しさに喜んでいたのでこの時だけ。買い物の度にお札を何枚も数えたり桁を間違えたり、なかなか慣れないまま滞在中悩まされ続けることになりました。



バスの車窓から街を見てまず目についたのは、バイクの群れ。どこもかしこも道路を埋め尽くすほどのバイクバイクバイク！とんでもない数です。ホーチミン市にはまだ地下鉄がなく(日本政府の資金援助や日本企業の工事により2020年完成予定)、自動車は高価なため市民の足として欠かせないのがバイクなのです。日本製が圧倒的シェアを誇り、中でもホンダが特に有名なため、ベトナム人にとって「ホンダ」はバイクの代名詞として普通名称化しているほどです(「セスナ」や「シャチハタ」状態)。



ホテルにチェックインを済ませてから、夕食までは小休止の時間が取られていたのですが、普段なかなか来ることのできない海外で、若さ溢れる青年部会員たちが大人しく部屋で休むなどありません。ホテルの近くには繁華街もありお店がたくさん並んでいたのも、徒歩で散策して発見したルーフトッパーに入ってまずは無事到着できたことに乾杯。新興国独特のエネルギーに満ち溢れた街の様子を眺めながら、一息ついたのです。

初日の夕食はレストランでのベトナム料理でした。パクチーが苦手だという会員も多かったのですが、調味料のように別皿で出て来てお好みで加える感じだったので、パクチー苦手な人も安心していただけたようです。



2日目はホーチミンにある Universal Steel Fabrication 様 (以下、USF 様) を訪問させていただきました。USF 様は2008年に組合員である三星工業 (株) を含む4社の合弁で建設業界向け鉄骨製造・販売を目的として設立されました。現在、社員数は約100名で鉄骨の製造能力は年間10,000トンあり、ベトナム国内のみならず日本やフィリピン、マレーシア、インドネシア、タイ、カンボジア、ラオス、そしてアフリカへも製品を輸出しているとの事です。工場では、日本人作業者はおらず多くの若いベ

トナム人作業者のみで3DのCADを用いて製品の設計から加工までをワンストップで行っていました。昨今の実績としては、鉄橋、高層ビルや工場の鉄骨を中心に製造しているとのこと。地震のない世界各国向けの製品と日本向けの製品の品質・仕用の違いを上手く使い分けて製造していたのが印象的であり、東南アジア諸国の企業の技術的な成長を肌で感じる機会となりました。



視察を終えた後は、スイティエン公園というテーマパークへ立ち寄りしました。テーマパーク・・・？オッサン（一応青年部）たちが？

このテーマパークは、「世界のテーマパーク12選」にも選出されたベトナム最大規模の遊園地（東京ディズニーランドと東京ディズニーシーの合計面積より広い）で、その独特の世界観やインパクトが強すぎる像などが有名です。近年インターネット上の記事などにより日本でも知られるようになり、ちょうどこの2月にもTBSの「ふしぎ発見」で紹介されていました。

中の様子はとても文章で表せないような、まさに不思議な空間でした。極彩色の写真をどうぞご覧ください。





ビジュアルだけではなくありません。立体映像の3Dに風や動きなどの体感を加えた4D映画というのは最近日本でも上映されていますが、スイティエン公園内では8Dに12D! 未来に行き過ぎでついていけません。



園内では、ネズミやアヒルのキャラクターで人気の国民的テーマパークのBGMが流れていたり、メガネの男の子が魔法の勉強をしていた学校によく似た「マジックキャッスル」というアトラクションがあったりと、胡散臭さも相当なものです。



ガイドさんおすすめのワニ園にも行ってみました。あまりにもワニがたくさんいたので、「本物のわけないよね」と言っていたらなんと全部本物でした。「ワニ釣り」も面白そうなのでやってみました。でも本当にワニが釣り上げられるわけではないので、要するに紐にエサぶら下げた単なるエサやりですね。なかなか迫力あって楽しかったです。



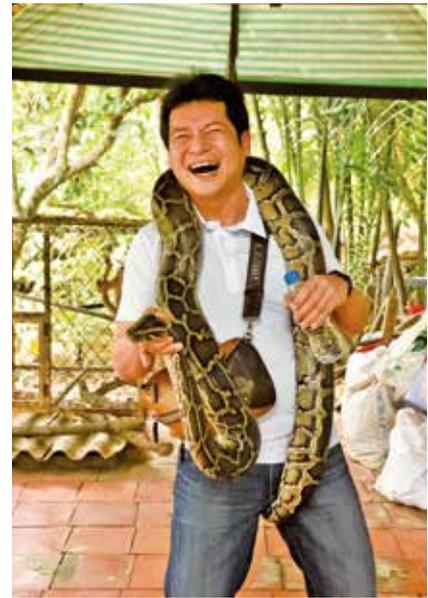
この日の夕食はベトナム海鮮料理。目の前で豪快に蒸していただいた新鮮なエビや、巨大なシャコのフライなどを頂きました。



3日目はゆっくり観光です。バスで1時間半ほど走ってメコン川へ。さすが東南アジア最長の河川、とてつもなく広いです。そして水が茶色い。しかしこれは、農作物を育てるための栄養がたっぷり含まれているからだとか。ホーチミン市やメコンデルタ地域を含むいわゆるベトナム南部では、こんなに大きな川が多いのに堤防というのは一切ありません。台風が十数年に一度しか来ないなどそもそも洪水が少ないこともあります。堤防を作ることによって川の水が土に浸み込みにくくなり農作物に影響が出るほうが困るのだそうです。ベトナム南部の人の生活はまさに農業と一体であるといえます。



そのメコン川を船で中州に渡り、ジャングルをのんびりお散歩。南国フルーツを味見したりニシキヘビを巻いたりとジャングルならではの体験をして、お昼はメコン川特産の「エレファントイヤーフイッシュ」(その名のとおり象の耳のように巨大な淡水魚)の姿揚げをいただきました。



ホーチミン市内に戻ってからは、「統一会堂」などを見学・散策し、夕食をいただいて全日程終了となりました。



統一会堂は、ベトナム戦争の最終盤、当時南ベトナムの大統領府だったこの建物のフェンスを北ベトナム軍の戦車がなぎ倒して突入、首都サイゴンが陥落した——という映像で記憶にある方も多いと思います。その時の戦車も敷地内に展示してありました。一つの国が分断されて同じ国民同士が殺し合うというのは想像を絶する事ですが、我が国も一歩間違えればそんな状態になっていたかもしれません。平成という時代が平和で本当によかったと改めて実感し、平和のありがたさをかみしめながら帰国しました。平成最後にふさわしい、素晴らしい研修旅行となりました。



後記 ～ベトナムの若者～

実際に訪れてみると様々な記事で取り上げられる通り、ベトナム・ホーチミン市は若者の街でした。都心部では昼夜を問わず街角に若者が溢れ、あちこちの路地で高級ブティック店から屋台まで種々雑多な経済活動が繰り広げられていました。そのエネルギーは目を瞠るばかりです。それもその筈、ベトナムは総人口(約9,500万人)の57%が34歳以下とのことです。

我々日本の状況を見てみると若年層だけでなく全体人口としても、減少期に入っております。

これに比べて前途洋々に見えるベトナムの状況ですが、その若者達には将来への課題がある模様です。

当たり前ですが、「現時点の若者」がいつまでも若い訳ではありません。継続的な発展の為には、「次の若者」が現れる必要があります。次世代であるベトナムの15歳以下の人口を見てみると、1990年代には全人口に対し40%であったのが、2017年は23%程度で推移しているとのこと。絶対数も減少しています。これには、ベトナム政府の「ふたりっ子政策」も大きな影響を与えたようです。

全人口のうち65歳以上人口が21%以上となると「超高齢化社会」と呼ばれます。我々日本のこの割合は27%とダントツで世界1位で、2位のイタリア23%を大きく引き離しています。ベトナムは現若者は多いが、次世代若者が減少に転じているため、一旦高齢化が始まると日本などより急速に問題が悪化するそうです。このままでいくとベトナムも2050年には65歳以上人口比率が21%以上となり、「超高齢化社会」の仲間入りだそうです。(WHO試算)

暫く前には、先進各国の企業やその生産拠点が途上国へ進出する流れがありました。(外へ向かうグローバル化)。近年では政治的、経済的と原因はいろいろありますが、より富める国への移民(内に向かってくるグローバル化)がすすんでいます。何れにせよ、かつてない規模とスピードで、「働き手」と同時に「消費者」でもある若者の獲得合戦が進んでいるような気がします。人財にしても、仕事にしても「新しい要素を注入しつづける。」ということがいかに重要かは論を待ちません。我々のホームである日本では、人手不足問題がニュースに取り上げられない日はありません。若者や人財の一層のグローバル化が進む中、金属団地のそれぞれの会社でも、「人財を求め外へ出ていくのか」、「外国から受入れるのか」、はたまた「第3の道を考えだすのか」、..、どのような形になるかは定かではありませんが、挑戦し続けていかなければと改めて思い知らされた次第です。



H32“新規高卒獲得”のための準備として その2

平成30年度の「新規高卒就職戦線」の総括

先月号では、平成30年度に県内の工業系高校に求人をしている企業の情報を提供させて頂きました。今回は、平成30年度の県内工業系高校11校の“進路状況”及び“求人・就職状況”について紹介させて頂きます。

卒業生数は1,907名(+14名)、就職者数は1,423名(+52名)、就職率は72.6%(-0.8%)、進学者数は532名(-38名)、進学率は27.1%(-2.2%)となっています。なお、()内の数字は昨年度からの増減です。県内工業系高校の就職率は70%、進学率は30%前後でこの数年間推移しており、大きな変化はありませんでした。例年、岐阜総合学園高校・飛騨神岡高校の総合学科の2校では進学率が就職率を上回っているのですが、今年度は若干就職率が進学率より高くなっています。企業の皆様から、「工業高校は進学者の方が多いのでは？」との声をよくお聞きしますが、例年7割前後の生徒が就職をしているのが実情です。

平成30年度の岐阜県工業系11高校の学校別の進路状況及び求人状況は図1及び図2のようです。求人ターゲットの高校の学校規模や進路状況等をご理解頂いたうえで、平成31年度の新規高卒採用に向けて求人活動、特に求人票の記載内容の“カイゼン”を行って頂き、対策を立てて採用活動を行って頂ければと思います。

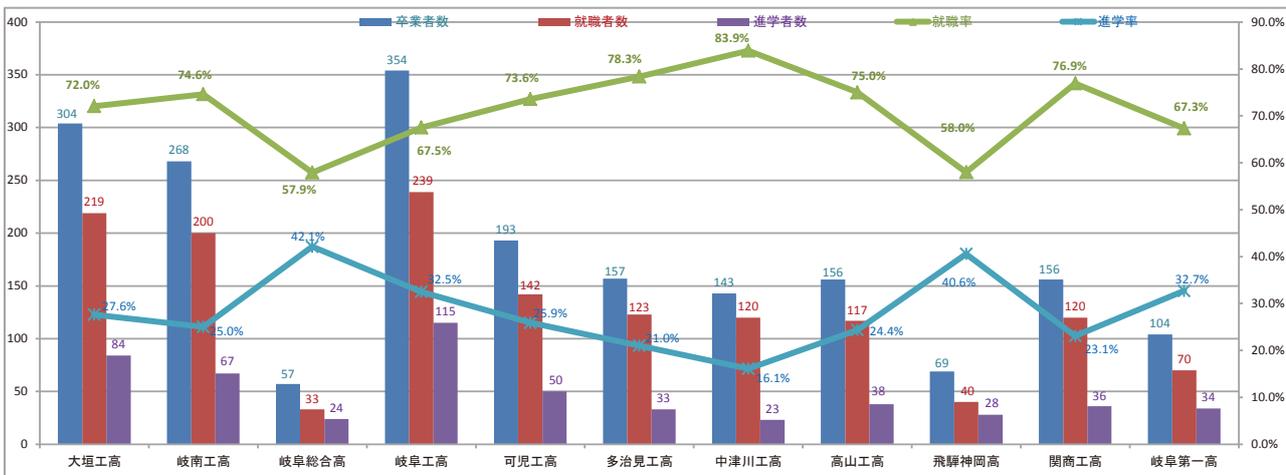


図1 平成30年度岐阜県工業系11高校の進路状況

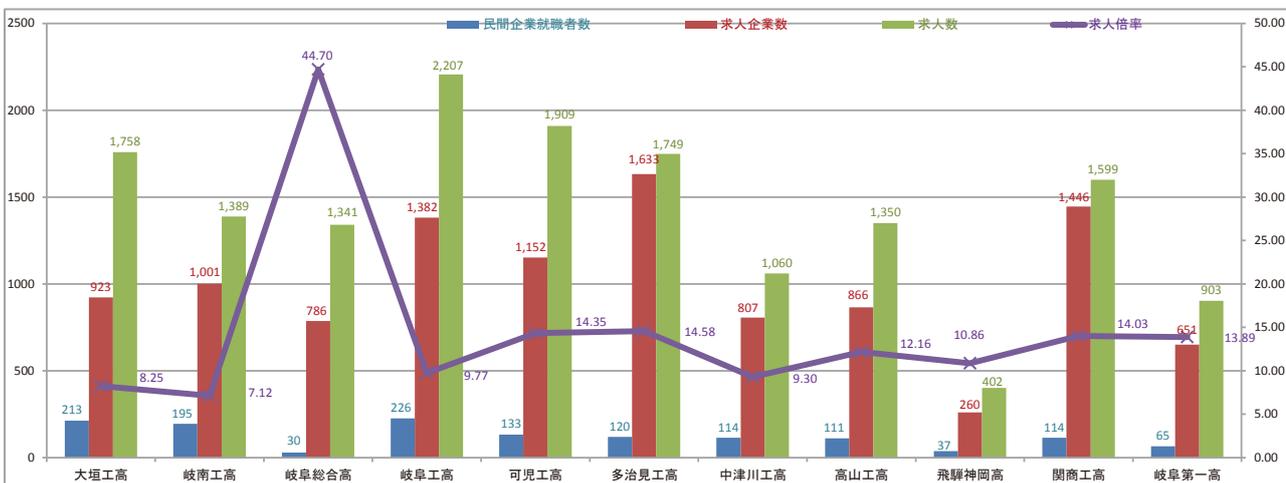


図2 平成30年度岐阜県工業系11高校の求人状況

求人総数は15,667名(+2,548名)、求人倍率は11.54倍(+1.48倍)と昨年度から更に上昇しています。このことから、金属工業団地の企業におかれましても、工業系高校からの新規高卒獲得には相当ご苦労があったのではないかと思います。高校別の求人倍率についても、岐阜工高9.77倍(+1.20倍)、岐南工高7.12倍(+0.31倍)、関商工高14.03倍(+2.13倍)、可児工高14.35倍(+3.84倍)と非常に高くなっています。この要因は、①愛知県の企業(自動車産業が主)からの求人が件数・求人数ともに大幅に増加、②関東地区からの建設業を主とした求人増が挙げられます。市内企業からの工業系11校への求人企業数・求人数ともに、この3年間で大幅に増えています。

岐阜総合学園高校の求人倍率が44.70倍と異常に高くなっていますが、これは、平成9年度に岐阜西工業高校と岐阜第一女子高校との統合により「総合学科高校」となり、工業系列を学んでいる生徒が例年100名前後と激減したこと、更に、総合学科の特色として進学者が多くなり、岐阜西工高時代と比較して就職者数が大幅に減ったことが要因です。(岐阜西工高時代の学校規模等のイメージ(企業内での岐阜西工高OBの存在)で求人活動をされているのでは?との印象があります。)

地域別就職率は平成29年度のデータでは、県内就職率66.0%(-0.7%)、県外就職率34.0%(+0.7%)となっています。 ※()内は平成28年度からの増減 県内就職率は最高値であった平成25年度の73.2%から毎年微減しており、平成29年度はピーク時の7.2%の減少となっています。これは人数に換算すると-約100名の県内就職者の減少となり、この分が県外(主に愛知県)流出増となります。企業の皆様からは、「工業高校の生徒は、みんな愛知県の大企業に就職をしてしまう。」とのお話をよくお聞きもしますが、就職者の7割弱が県内就職希望で、この内の大多数の生徒が『自宅から自動車による通勤1時間以内の企業へ就職をすること』を望んでいます。(このような生徒の就職意識については、次号で詳しく紹介させて頂く予定です。)

愛知県の自動車関連産業が引き続き好調なことや、MRJが型式認定を受けて本格的な生産体制に入ったときの、愛知県の航空機産業関連180数社からの県内工業系高校への求人増等を考えると、愛知県への就職による人口流出増の傾向が今後も継続することは確実であり、各務原市にとって(県にとっても)大きな課題であると考えています。また、今後益々深刻化する“少子化問題”への対応を考えたとき、各務原市が、就職を考えている地域の高校生たちにとって魅力ある街となり、より多くの若者たちが職を求めて集い“定着”する街になるためには、企業の皆様と共に今何をすべきか現状を分析し、対策を立てて実施していかなければいけないと思っています。

企業人材全力応援室では、各務原市の産業及び市内企業の理解を促進し、市内企業への新規高卒就職者を増加させるために、平成29年度から『地育地就事業』(地域で生まれ育った若者の、地域企業への就職を促すための事業)を推進しています。この事業の一つとして平成30年度には、『ジモト優良企業の見つけ方』と題した講演会(講師:株式会社名大社代表取締役社長 山田哲也氏)を、岐阜工高、岐南工高、関商工高の3年生保護者(母親が中心)を対象として開催しました。この講演会の中で、各務原市の産業・企業紹介も行いました。今年度は新たに可児工高を加えて4校で実施する予定です。市内企業の皆様と市が一体となって、“H32新規高卒獲得”のための準備を万全に整えていきたいと思っていますのでよろしくお願いします。

今回は、岐阜工業高校で実施した「機械系学科生徒(2年生)の就職に関するアンケート調査結果」について述べさせて頂く予定です。

(文責:各務原市商工振興課企業人材全力応援室長 長屋千秋)



お知らせ

平成31年3月分電力使用状況



電気は正しく使いましょう!!

災害時の、万全の備えの知識

地震、雷に備えての準備は万全ですか？

【備えあれば憂いなし】

- ・懐中電灯またはLEDライトを準備しましょう
- ・充電式非常灯等を設置する

【地震が発生】

- ・電気ストーブ、アイロン、ドライヤー、ファンヒーターなどの熱を出す器具はブレーカを切る
プラグをコンセントから抜く

避難するときは、必ず分電盤のサービスブレーカを切ってから避難しましょう

行事予定

2019 **4** April

16 火	
17 水	
18 木	岐阜県中小企業団体中央会理事会
19 金	
20 土	組合研修センター清掃 『組合休日』
21 日	
22 月	
23 火	岐阜南間税会役員会
24 水	
25 木	役員会(12:00~)
26 金	青年部総会・懇親会兼卒業式
27 土	団地G 『組合休日』
28 日	
29 月	『昭和の日』
30 火	『国民の休日』

2019 **5** May

1 水	『天皇即位の日』
2 木	『国民の休日』
3 金	『憲法記念日』
4 土	『組合休日』『みどりの日』
5 日	『こどもの日』
6 月	『振替休日』
7 火	労務委員会(11:00~) 総務委員会(12:00~)
8 水	業務委員会(11:00~) 環境委員会(12:00~)
9 木	財務委員会(12:00~)
10 金	監査(9:30~)
11 土	『組合休日』
12 日	
13 月	役員会(12:00~)
14 火	
15 水	

■ 5月の行事予定

5月24日 ☞ 第58期金属団地通常総会、懇親会
5月25日 ☞ 総会記念G

■ 3月度金属団地ゴルフ会

3月23日 ☞ 岐阜カンツリー倶楽部
優勝 森田吉久(テクノ共栄) 2位 小栗國男(信栄ゴム工業) 3位 今井哲夫(今井航空機器工業)

<http://www.g-mecca.jp>

G-MECCA

GIFU METAL ENGINEERING COMMUNITY COOPERATIVE ASSOCIATION

